□7月14日説教(短縮版)隅野徹牧師 「あなたを愛する神」　イザヤ43:1～7

イザヤは「神の民として選ばれ、愛されたイスラエルの民が、その神から離れ、道徳的に腐敗した生活を送ったことが、捕囚という大きな苦しみにつながったことを知っています。そしてそこからの「神の愛による回復の預言」を語ります。神から離れ、神に背いた「イスラエルの民たち」は、バビロンに攻められ、都を焼かれ、捕虜として捕らえられていきました。普通なら、それで「ジ・エンド」です。しかし！そんな「自ら神のもとを離れていったイスラエルの民を」神は、買い戻すとイザヤは預言したのです。

注目すべきは「国々を代償」にするという3節で語られたことに加えて「あなたの身代わりとして人を与える」という預言がでることです。 イスラエルという国を買い戻すのに「国々」ということが挙げられるとともに「単数形で表された人」が身代わりとして与えられるのだ！とイザヤは預言しています。「一人の人間となって、この世に来られ、十字架にかかり私たちの贖いを成し遂げられたイエス・キリスト」を通して買い戻され、神のものとなったのは「イスラエルの民たち」だけでなく「異邦人であるわたしたち」もそうなのです。神がその独り子であるイエス・キリストを差し出してまで、すべての人間を「買い戻そうとされる」つまり「罪から救い出そうとされる」のはなぜかというと、それは4節の一行目の言葉に表れているのです。「わたしの目には、つまり神の目には、わたしたちは値高く、貴いからだ」という理由なのです。新改訳でいうところの「わたしの目には、あなたは高価で尊い」からなのです。イスラエルの民たちも、そして私たちも「愛の神に造られ、愛の神に導かれながらも、そこから離れて行ってしまう」弱くて罪深い者たちです。しかし！そんな者たちをも神は愛し、守り、導かれるのですが、その愛が究極的にわかるのが、4節3行目にある「あなたの身代わりとして人を与える」という神の業です。つまり「独り子を十字架にかけてまで、私たちを救おうとなさる神の業」を見つめるときにこそ、「神の愛の大きさ」が迫ってくるのではないでしょうか。(終)